おかよう

広報誌 Vol.11

発行元：岡山県児童養護施設等協議会「職員関連事業部会」

会長あいさつ

会長：松田　浩一郎

先日ある方に「次は３月ですね。」と話しかけますと、真顔で「人類が残っていればいいですね。」と応えられました。コロナウィルスのオミクロン株が世界に蔓延し、ロシアのプーチン大統領が開戦し、幼い子どもの虐待も後を絶つことなく、尊い人命が次々に失われ世の中は騒然となっています。世界が輝いたあの北京オリンピックが幻のように思えます。その中にあって私たちは、子どもたちの生命と安心安全な生活を日々守り続けています。しかし、子どもも大人もストレスの貯まる不自由な生活を余儀なくされています。そんな時、子どもたちの笑顔に救われます。この笑顔を絶やさないために、何ができるのか、どうすれば良いのか、常に問い続け、そして取り組んで行くことが、私たちの努めであると考えます。

おめでとうございます

悲眼院　高橋昌文先生「瑞宝双光章」受章

令和３年秋の叙勲にて、悲眼院の高橋昌文院長が、瑞宝双光章を受章されました。

高橋先生は、６人兄弟の末っ子として生まれ、子どもの頃から入所児童と一緒に生活しておられました。昭和49年、29歳の時に３代目院長となり、これまで延べ1,000人以上の子どもたちを育て、送り出してこられました。

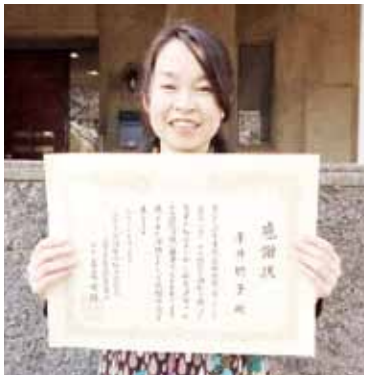
この度の受章を受けて、高橋先生は「今回の章は、この施設や子どもたちを支えてきた人たちの代表としていただいたものだと思っています。職員や地域の方々に感謝しています」と述べられていました。

全国児童養護施設協議会　永年勤続表彰

子どもたちの成長と共に、自分自身が多くのことを学んだ20年でした。

何事にも感謝を忘れず、より一層精進します。

（若松園　平井　聰子）



この度はありがとうございます。食で元気な身体作り！をモットーに、これからも日々挑戦していきたいと思います。

（岡山聖園子供の家　栄養士　妹尾　喜久美）

専門部会　活動報告・トピックス

児童部会　チャレンジ大会

令和３年度、児童部会では、コロナ禍の制限がある中でも、何かできる事はないか協議をし、『チャレンジ大会』を実施しました。学校の夏冬の長期休み中に、「なわとび」や「百マス計算」などの記録を各施設でとって提出し、共通のルールの下、スピードや回数などで順位を競う、というものです。個人に加え、団体競技も設定し、関わりが少ない子同士が一緒に体を動かす姿も見られました。今後もアイデアを出し合いながら、安心安全に、そして子どもたちにとって有意義な場を作っていきたいと思っています。

職員部会　実践発表会

令和４年２月22日に岡山県児童養護施設等職員実践発表会が開催されました。昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となったため、２年ぶりの開催となりました。今回は初めてオンラインでの研修となり、不慣れな中ではありますが多数の施設・機関の先生方にご参加いただき、ご講演・ご発表を賜った先生方には深く御礼申し上げます。今後も引き続き学びを深める機会として、情勢にあった開催ができることを期待しています。

小規模ホーム完成（玉島学園）

令和３年度４月より、小規模グループケア棟、（あおぞらホーム、ひまわりホーム）での生活を始めました。木造平屋建て、１ホーム６名定員です。木のぬくもりを感じる中で、リビングを吹き抜けにし、廊下をなくすことで開放感をつくりました。また、アイランドキッチンを設置し、職員と子どもたちのコミュニケーションが取れるように考えました。

児童家庭支援センター『つむぎ』開設（立正青葉学園内）

当センターは、児童養護施設立正青葉学園に付置されており、美作地域10市町村を対象とした『はぐくみの拠点』を目指し、子育て相談や里親支援、ショートステイ、地域交流といった事業を行っています。

施設名の「つむぎ」には、「糸を紡ぐプロセスのように時間をかけ、丁寧に地域の人のそばに居続けることで心を通わせ、一人ひとりの幸せにつなげたい」との思いを込めています。

児童家庭支援センター『どんぐり』（児童養護施設若松園内）

『どんぐり』という言葉の語源は「まるい輪」、花言葉は「歓待」です。地域すべての子育て家庭の伴走者でありたいという気持ちでセンター開設に至りました。

「歩み入る人に安らぎを、去り行く人に幸せを」を願い、勇気を出して相談にこられたことを労い、スタッフ一同は仁・義・智・信・礼の姿勢で支援を展開していくことを心がけています。相談件数は右肩上がりです。今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

茶話会にて、地域の保護者に幼児安全法（心肺蘇生法）を実施

施設の取り組み

コロナ禍で工夫した行事等を紹介します

岡山市善隣館

コロナ禍であっても少しでも実り豊かな経験をしてほしいとの思いで、密を避けて海に出かけ、釣りをする活動を続けています。はじめは釣り竿に触ったこともなかった子どもが魚を釣り上げ、「もっと大物を釣ってやる」と意気込んで竿を出している表情は施設の中での生活では見せることのない姿です。魚のこと、海のこと、仕掛けのこと、料理のこと、環境のこと等、今まで知らなかったことを経験から学び、子どもも大人もどんどん成長しています。

岡山聖園子供の家

聖園ではマスク着用を基本とし、子どもたちの活動は出来る限り少人数を心がけています。ボランティアさんによるギター教室に参加している子どもも、一人で黙々と練習に励んでいます。（イエス様、マリア様もマスクをしています！）

一般社団法人かすがいの支援による『パティシエの仕事見学』では、シエルブルーの伊藤シェフが来園され、目の前で特製のパフェを作ってくださいました。

若松園

若松園では現在、約50人の子どもたちが６つの小規模ホームに分かれて生活しています。令和４年４月には学区内において新築した地域小規模児童養護施設が新たにスタートする予定であり、小規模化・地域分散化に向けてさらに歩みを進めていきます。

コロナ禍においては、子どもたちが企画運営した「ミニ若松園まつり」や「ハロウィンパーティー」、室内にテントを張って実施した「おしゃれキャンプ体験」等、工夫を凝らしながら２年間を過ごしてきました。対面でのコミュニケーションが満足にとれず、さらには地域分散化が進む中にあっても、職員間の日々の情報共有や置かれた環境の中で知恵を絞り楽しむ工夫など、大切なことを見失わず過ごしていきたいと考えています。

新ホーム　ひいらぎの家

ハロウィンパーティー

施設の取り組み

コロナ禍で工夫した行事等を紹介します

南野育成園

今年度もコロナ感染対策を継続しながら、園外活動はホール単位での外出をしたり、園内では季節ごとにイベントの企画やお菓子づくり、初めてのキノコ栽培にも挑戦しました。

また、子どもたちが中心となって企画した「かるた大会」や、ホール対抗で出し物を披露する「新春・演芸大会」を開催し、子どもたちの成長も感じられる良い機会となりました。

引き続きコロナ禍でも楽しめる活動を通じて心のつながりを大切にしていきたいと思います。

新天地育児院

新天地育児院では、コロナ禍にあっても、「明るく、元気で、のびのびと！」の気持ちで皆楽しく暮らしています。おとなも子どもも健康を大切にし、日頃から笑い合うことを大切にし、免疫力をアップしてきました。お休みの期間はほっこりとしたイベントを盛りこみながら、彩のある生活を心がけるようにしています。

わかば園

当園では、何か思い出に出来る行事をと考え、野外で感染対策のとりやすい海釣りの機会を増やしました。児童によっては全く釣れない時もありますが、それでも「また行きたい」と言う声は男女共に多く、良い気分転換にもなっている様です。また園内でも、スクリーンを使用したプチ映画観賞会、恒例行事のクリスマス会や、進級児童や卒園生を祝う激励会などを実施しており、コロナ禍だからこそ、みんなで過ごし、楽しむ機会を大切にしています。

施設の取り組み

コロナ禍で工夫した行事等を紹介します

立正青葉学園

春は『お花見』、夏は『肝試し』、秋は『ハロウィン』、冬は『クリスマス』といった季節の行事を行うべく、どのような感染対策ができるのか各々で考え、策を出し合い、新しい形での行事を決行致しました。人と人との接触は最小限に抑え、リモートの導入、マスクの着用、手洗い、消毒、黙食、換気を合言葉に子どもたちにも協力をお願いし、実践。今ではマスク着用率も急上昇。自分を大切にし、他者を思いやり、感謝をすることのできる温かい心をみんなが持てるように日々、成長していきます。

ハロウィン

クリスマス

玉島学園

令和３年度、新しいユニットケア２ホームを新築し、既存のユニットケアホーム１ホーム、本舎の４グループで運営してまいりました。

小規模化による変化として、食事場面では家庭に近い雰囲気であったと感じております。朝、職員がホームで食事を作り、みそ汁のにおいで子どもたちが起床する。調理職員が子どもたちの前で腕によりをかけて、おいしい食事を作ってくれています。コロナ禍のなか、孤食、黙食の制限はありますが、家庭的な養育の第一歩となりました。

天心寮

コロナ禍の合間を縫って、国立吉備少年自然の家で１泊２日のフォローキャンプに行ってきました。オオサンショウウオを見たりシャワートレッキングやカヌー体験をしたりしました。どれも初めての体験で、子どもたちの普段見られない表情やたくましさをたくさん見る事ができました。また、コロナが落ち着いたら、新しい冒険を求めにぜひ行きたいと思います。

施設の取り組み

コロナ禍で工夫した行事等を紹介します

みのり園

児童養護施設みのり園は岡山県中央部の緑豊かな土地にあり、近隣を散策することで、四季の移ろいを感じることが出来ます。より多くの自然体験として『釣り部』を結成し、海釣りをしています。インドア派のために『ゲーム大会』を月に一度行っています。中止となった「みのり園ふれあい夏祭り」に代わり、『縁日』を実施しました。各ホームで『焼き肉』『テイクアウトご飯』など飲食の楽しみも継続しています。

コロナ禍の中、工夫を重ねながら余暇活動と食事等生活の喜びと豊かさと子どもたちの笑顔を大切にしています。

悲眼院

令和３年度、遅ればせながら二つ目の敷地外小規模グループケアをたちあげました。コロナ禍の為、感染対策で本院も児童を分離して食事をすること等は継続しています。また職員は、スマホ等を利用してタイムリーな情報共有をしています。

行事等が軒並み中止となる中、施設内運動会とX'mas会は内容を縮小するなどしてかろうじて開催することが出来ました。子どもたちも例年以上に喜んで参加していました。改めて何気ない日常の大切さを感じた次第です。

旭川乳児院

院庭に真新しい遊具設置！！

旭川乳児院の院庭にはこの度新しい遊具が設置されました。「コラボステージ」、「２人用ブランコ」と「すべり台」です。これは、山本博子様という方から「未来を背負っていく子どもたちに何か残したい」との想いで当院に遺贈いただいたご寄付を「山本博子基金」として設立、基金の中からその一部を利用させていただき設置しました。子どもたちには遊びを楽しんで体験を深めていってほしいですし、これらの遊具がこれからの健やかな成長に繋がっていってくれたらと思っています。

２人用ブランコ

コラボステージ

すべり台

施設の取り組み

コロナ禍で工夫した行事等を紹介します

津島児童学院

津島児童学院では、生活場面でアサーショントレーニングを基としたグループワークを行い、児童同士が互いに気持ちのよいコミュニケーションの練習を進めています。また、心理部門では旭川荘内の心理職員との合同研修を進めており、より多視点から児童やケースに向き合い、措置児童が自分にとってより良い選択ができるよう支援しています。過ごしにくい状況が続く現在ではありますが、工夫や趣向を凝らしながら奮闘する毎日です。

岡山県立成徳学校

成徳学校のイベントとして登り窯で焼く窯焚きがあります。コロナの影響で延期していましたが、今年は外部の来校者を制限しつつ実施しました。喜びも束の間、新たな問題が…。

訓練棟を取り壊したため、雨風を凌ぐ場所がなかったのです。そんな時、岡山岡南ロータリークラブ様がテントを寄贈してくださり、涙が出るほど嬉しく安心しました。

窯焚きが始まると、テントの明かりに人が集まり、今年もにぎやかで温かい空間となりました。最大1150度まであげる窯を囲んで、成徳学校の皆で取り組みながら話す姿は、コロナに負けない、負けられない、希望を感じる瞬間だったと感じています。

組織図

岡山県児童養護施設等協議会

岡山県児童養護施設等協議会
役員（会長1名、副会長2名、監事2名）

- 制度政策部会
- 児童関連事業部会
- 職員関連事業部会
- 心理部会
- 食育部会
- 里親支援専門相談員部会

投稿コーナー

８月のある日、高校生のＩちゃんが夜に事務所にやってきた。Ｓ先生に「先生、明日朝早く起こしてな～」と話している。私はなぜだろうと思いくどうしたん？明日、登校日？>と聞くと、Ｉちゃんは私にこう言った。「だって、明日野上さんのカプラ大会があるんじゃろ。参加するためじゃが！」と。なんて嬉しい言葉だろう。これからも、室内しクを続けてまいりたいと思います。サンキュー

４歳のＹちゃんとＺくん、お月見に出かけた時のことです。川の水面に映る月を見て「月が２つもある！今日はスゴイ！！」と感激したり、「月が追いかけてくる～。怖い－っっ！」と恐れたり…。また一緒に夜のお散歩行こうね☆

コロナ禍でグランドで遊べないけど、園庭でフリスビー鬼ごっこがブーム。風にあおられて屋根に不時着。物干し竿でダメなら最終兵器「脚立」。職員が高所恐怖症と闘いながらもナイスキャッチ。ヒーローなのは職員を尻目に今日も元気な子どもたち。

３ヵ月前にはまったく縄跳びを飛べなかった子が、今は二重あやとびができるようになりました。学校の休み時間も、放課後の外遊びの時間も、ずーっとなわとびを飛んでいました。私は、あなたがなわとびを飛べるようになったこと以上に、一つのことに一生懸命うちこんだ姿勢に称賛を送りたい。素敵なあなたの存在に力を貰いました。

幼稚園年長Ｈちゃんの作品『お花がたくさん』が全養協絵画展で銅賞を受賞しました。若松園では、子どもたちが自由な発想で絵を描く姿を大人がそばで見守り、子どもの感性に共感することを大切にしています。子どもにとって安心できる環境が、感性豊かな作品に繋がったのだと思います。絵を描くことを通して、柔軟で型にとらわれない創造力を育んでもらいたいと考えています。

（若松園）

子どもの想像力は偉大です。
施設で飼っている熱帯魚の水槽の前で子どもたちが話していました。
「美味しそう・・・」。

編集後記

コロナ禍で２年が経過し、何かと繋がりが薄くなりがちな今日この頃です。皆様の近況を聞くと、職員は奮闘され、子どもたちはどんな環境にも慣れて元気なんだと、勇気づけられる気がします。
「おかよう」を読んで、皆様のモチベーションが少しでも上がれば幸いです。